# 世界8大学合同国際学生フォーラム

## 日本 お茶の水女子大学

### 松田 晶子 Ochanomizu University お茶の水女子大学

I got an opportunity to make the presentation in this forum. It was not easy for me because I'm not good at English. But now, I can say it was great experience and gave me a lot of confidence. The title of my presentation was "Comparative risk perceptions about nuclear power plants in Fukushima, Tokyo, and Manchester". I made a questionnaire and asked students of each University in three cities. I found they have different perceptions about nuclear power plants. This result was very interesting. However, I was worried about making this presentation because of my complicated situation. I was originally born in Fukushima. On 11th March in 2011, I was in my hometown, so I'm certainly a victim. But now, I'm living in Tokyo. There are many people in Fukushima who are suffered from the problem of nuclear power plants. On the other hand, there are a lot of people in Tokyo who have no problem in their lives. Therefore, I was worried whether I could talk in this forum as a person from Fukushima. Are my opinions and feelings same with them of people living in Fukushima? It is very difficult question for me and I have not found the answer. However, after the forum, I think it was good to make the presentation. It is because my presentation became a chance for my friends to think 3.11 earthquake and the problem and nuclear power plants again. Especially, my friends who came Japan from other countries for this forum said my presentation was good. Their comments made me happy. Sometimes people tend to forget disaster. But I hope people remember 3.11 earthquake and the problem about nuclear power plants in Fukushima.In this forum, I got many things. The best is what I got many friends who live each 8 countries. We spent only a week, but I love my new friends. This relationship is precious for me, and I wish it going on for a long time.

# 松田 彩香

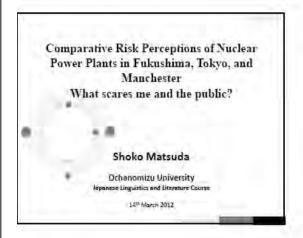
# Ochanomizu University

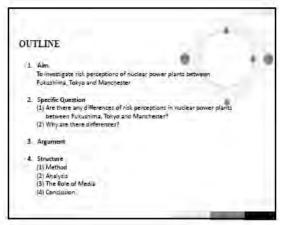
お茶の水女子大学

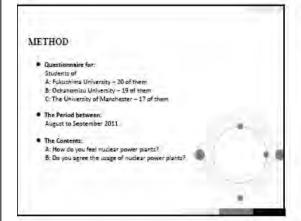
震災が起こった日、私は日本にいませんでした。ちょうどNZに語学研修に行っていたのです。そのときはTV やインターネットから流れてくるニュースをみて、絶望的な気持ちになっていましたがNZの人々は私が日本人とわかると大丈夫かと必ず励ましの言葉をかけてくれました。私はこのフォーラムで日本を励ましてくれている多くの国のことを知りました。中には歴史的背景から日本と複雑な関係にある国の人々も自らの意思で支援していると知り、その事実を知らなかった自分が恥ずかしくもあったし、同時にどれだけの日本人がそのことを知っているのだろうとも思いました。

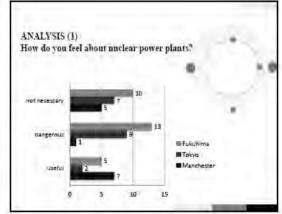
また、今回参加したどの国も共通して話していたのは「正しい情報がほしい」ということでした。正しい情報をどうやって見極めるかはとても難しい問題だと思います。しかし"現地の声"という意味での正しい情報ならば、実際にその場にいる友人がいればネットワークを使って交流を図ることはできます。国内外を問わず普段から交流のある友人をもつことに大きな意味があることを改めて感じ、このフォーラムでできた新しい友達を大切にしたいと強く思いました。

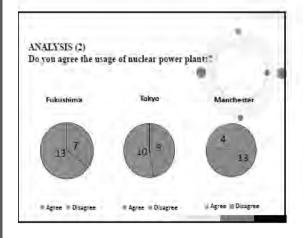
福島の方々の言葉で印象に残っているのは、「世界の人々がこの震災を忘れず復興を願って見守っていてくれている、と感じられることが一番嬉しい」という言葉でした。この思いに応える一歩としても、私はフォーラムで得たもの、感じたものをこれからも大切にしたいと思っています。



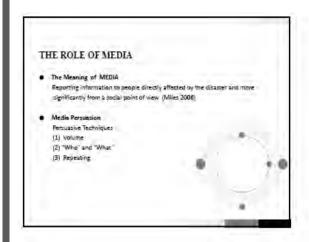


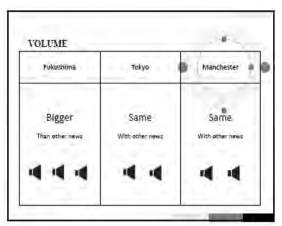




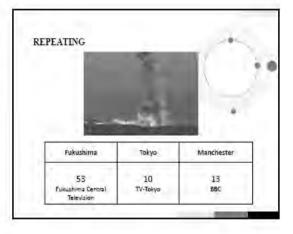


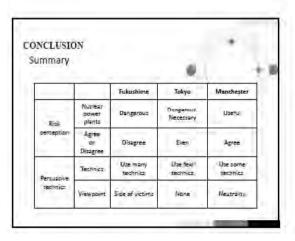


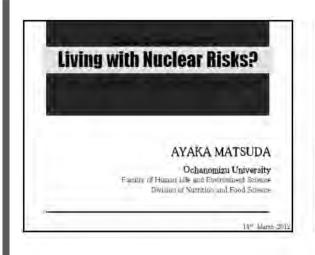


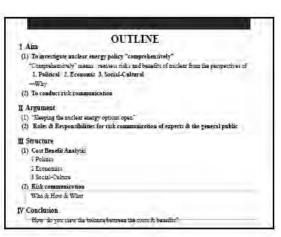


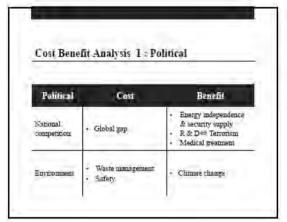


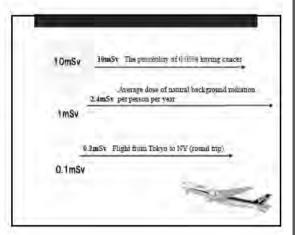


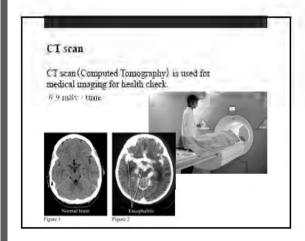


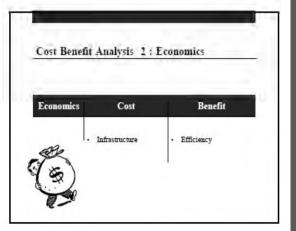








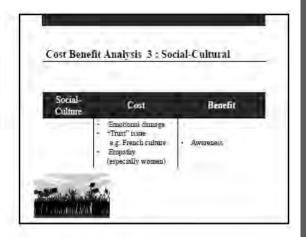




# The Cost of Power Production (Dollar / kwh) & (Yen/kwh)

ļ.,	Dollar / bwh	Sen/kwh
Muclear power	\$113.9	¥10.3
Wind power	\$243.2	V-21.9
Solar power	\$210.7	¥19.0
Coal power	\$136,2	¥12.2

DOE ELA 2010 15 = 90 yen



# Risk Communication Definition 31sk communication is an exchange of information about the likelihood & consequences of adverse events. The keys of risk communication are 1 Medis 2 Regulation 3 Institution

4 Expert

Risk Communication

The Roles of Experts

Show simple data which can be understood by the public

Participate in many forums to tell the real situations

# CONCLUSION Summary 1 Benefits - Costs ? 2 Experts show simple data for the public 3 The general public need to think by their own not emotionally

	Cost	Benefit
Political	Global gap	Energy independence & security supply     R.& D⇔ Terrorism     Medical treatment
	<ul> <li>Weste management</li> <li>Safery</li> </ul>	Climate change
Есопопис	<ul> <li>inflastructure</li> </ul>	Efficiency
Social- Cultural	Emotional damage     "Trust" issue     e g. French culture     Empathy     (especially women)	Awareness



#### 芸術表現行動学科

#### 松井 泉歩

私たち日本人にとって決して忘れることのできない 3.11をオーストラリアで過ごすこととなり、オーストラリ アから私たちにできることはないか、と考えていた最 中、越智先生からTV会議のお話をいただき、このプ ロジェクトに参加させていただくことを決めました。高 橋さんを中心として、SNSを通して呼びかけをしたとこ ろ、私たちと同じ想いを持った他大学の学生の力強 い協力を得ることができ、プロジェクトの実現に至りま した。私は、このプロジェクトで、大阪大学の宇貞哲さ んと共に、日本人とオーストラリア人の意識調査を担 当しました。この調査を通して様々な声を聞きました が、一番強く感じたのは、もっと活動を広げていくこと の重要性です。誰もがこの未曾有の震災の悲しみや 恐ろしさを理解し、復興への強い願いを持っています。 しかし、わたしも含め、具体的な行動が伴っていない ひとがとても多いように感じました。悲しいことに、た だ被災者を思いやり、復興を願うだけでは、何も解決 されないのです。心の中だけでなく、実際に、形として、 結果を出して、復興に貢献していかなければならな いと強く感じました。震災当時、多くのアーティストや 団体がボランティアに取り組み、国をあげて、様々な 慈善活動がなされていました。しかし、今となっては、 その数も減ってしまい、過去のこととなりつつありま す。私たちがすべきは、一時的な援助ではなく、もと の生活に戻れるように最後まで責任を持ってする継 続的な援助ではないでしょうか。恥ずかしい話ではあ りますが、この震災プロジェクトを通してそのことに気 づけて本当によかったと思っています。とても良い経 験をさせていただきました。

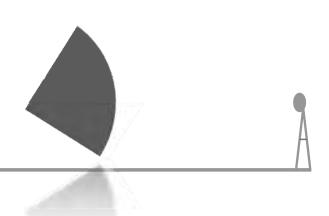
# 言語文化日本語・日本文学コース

#### 堀江 真純

各国の発表を聞き、日本から遠い国でも、過去に日本との間に問題のあった国でも、本当に多くの方々が復興に向けて金銭的・精神的に支援して下さっていることを知りました。日本は一人ではない、世界中の人々が応援してくれていると思い、改めて復興に向けて頑張る勇気をもらいました。このことを考え、また、他の国で困っている人がいたら少しでも手助けできるように行動していきたいと思いました。さらに、このフォーラムでは様々な国の大学生と接することができ、活動内容もプレゼンテーションから学外イベントまで幅広いものであったため、短い期間ではありましたが、とても充実していました。是非、来年のフォーラムも、多くの学生にとっての国際交流の場となってほしいと思いました。



世界8大学合同国際学生フォーラム「東日本大震災の復興と私たちーローカル/グローバルに考える」 お茶の水女子大学学生スタッフの感想



# 言語文化 薄田 仁美

フォーラムに参加するまでは、私は 海外から日本への留学生と接したこ とがほとんどありませんでした。また、 今回留学生の多くが日本に来るの が初めてだったこと、しかも7つの異 なる国から来ているということもあり、 彼女たちのそれぞれがどこまで日本 語や日本人の考え方を理解してい るのかを把握しようとしながら最善 のサポートを試みましたが、とても難 しかったです。昨学期に留学してい た私には、彼女たちが日本語会話 のときに少し困っている姿を時々見 かけるたびに彼女たちの気持ちがよ くわかり、それでも上手に助けられ ない自分がもどかしかったです。そ の一方で、私が留学していた頃に現 地の学生がどんな気持ちで私に接 していたのかを知り、国際的な交流 は、相手国に行く側だけでなく受け 入れる側の心がけや努力があって 初めて上手くいくものだということを 学びました。また、日本を良く知って いる海外の学生の話を聞くことで、 日本が世界でどのような国と見られ ているか少し分かり、日本とはどう いう国か考える良いきっかけになり ました。

# グローバル文化学環 中坪 佑香

まず言えることは、このフォーラム に参加できて本当に良かったとい うことです。他の参加者や講演会 にお越し頂いた東北の方々から 様々な考えを学び、忘れたくない、 忘れてはいけないことに沢山出会 うことができました。留学生との交 流からは、彼らが遠く離れた日本 の震災について本当に真剣に考 えてくれていることが伝わってきて、 胸が熱くなりました。講演を聞きな がら大勢の参加者が涙を流して いて、複雑な歴史背景を抱えなが らも、国を越えて皆でひとつの思 いを共有している事実に、「がん ばれる!」と非常に前向きな気持 ちになれました。この思いは、話し 手の東北の被災者の方たちにも、 きっと伝わったと思います。震災 のことだけでなく国際問題や言語 学習についてなど、一週間という 短い期間でしたが、その時の短さ を感じさせないほど有意義な学び を得、これからも関係を続けたい 友人と出会うことができました。素 晴らしい機会を提供して下さった お茶大生、留学生、講演者の 方々、そしてこの機会を設けて下 さった先生方、本当にありがとうご ざいます。

# 言語文化 生駒 有紀

今回のフォーラムは改めて震災を 考えるきっかけを与えてくれました。 さまざまな国を通した視点から3. 11を見つめなおす貴重な機会でし た。参加した留学生たちの発表で は、外国で行われたたくさんの震 災支援の活動を聞くことができ、と てもあたたかな気持ちになりました。 応援してくれている方々が国外に もこんなにいるということを、自分も はじめて知りましたし、まだ知らな い人がたくさんいると思うと日本の 人に伝えてゆきたい思いでいっぱ いです。外国にいながらさまざまな 支援計画を立て実施している学生 を見ると元気付けられましたし、学 生である自分たちだからこそできる ことがたくさんあるのだと気づかさ れました。これからもこの震災その ものを、そして見守ってくれている 人々のことをずっと胸に留めて、国 を越えて支えあってゆけたらと感じ ました。





高田松原7万本の中からただ1本、波に耐え抜いた松が佇む。 安田菜津紀氏撮影